



平成 21 年 11 月 1 日
 大阪ウォーターフロント開発（株）広報チーム
 〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
 TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
 （担当：松原、齋部、西村、田井、鈴木）

11 月 1 日は計量記念日！

ジンベエザメの全長を計測しました！

かい
 「海くん」の全長は 4m67cm、体重は 1,200kg
 だい
 「大くん」の全長は 4m96cm、体重は 1,200kg

大阪市港区の海遊館では、“計量記念日”にあたる 11 月 1 日（日）の午前 10 時 00 分よりジンベエザメ「海くん」「大くん」の全長計測を行いました。

その結果、

「海くん」の**全長は 4m 67cm、推定体重は 1,200kg**

「大くん」の**全長は 4m 96cm、推定体重は 1,200kg** でした。

全長計測の作業は、午前 10 時 00 分から海遊館 8 階の「太平洋」水槽バックヤードにて、計測用カメラでジンベエザメの泳ぐ姿を撮影し、それをカメラと直結したコンピューターで画像処理して算出しました。また事前計測の結果、オニイトマキエイ（マンタ）の体盤幅は 3m13cm、イトマキエイの体盤幅は 2m39 cmでした。

・「海くん」の成長の推移

計測日	H19.6.20 (センター搬入時)	H19.9.11 (海遊館搬入時)	H19.11.1	H20.11.1	H21.11.1
全長 (m)	約 4.00	4.10	4.23	4.48	4.67
推定体重 (kg)	900	900	1,000	1,100	1,200
推定年齢 (歳)	5~6	5~6	6~7	7~8	8~9

・「大くん」の成長の推移

計測日	H19.9.15 (センター搬入時)	H20.6.15 (海遊館搬入時)	H20.11.1	H21.11.1
全長 (m)	約 4.35	4.50	4.61	4.96
推定体重 (kg)	900	1,000	1,050	1,200
推定年齢 (歳)	5~6	6~7	7~8	8~9

・「オニトマキエイ」の成長推移

計測日	H11.12.14 (海遊館搬入時)	H14.11.1	H15.11.1	H16.11.1	H17.11.1
体盤幅(m) (横幅)	1.80 (メジャーでの計測値)	2.43	2.60	2.68	2.80
計測日	H18.11.1	H19.11.1	H20.11.1	H21.11.1	
体盤幅(m) (横幅)	2.93	3.00	3.10	3.13	

・「イトマキエイ」の成長推移

計測日	H20.6.1 (海遊館搬入時)	H21.11.1
体盤幅(m) (横幅)	2.20 (メジャーでの計測値)	2.39

イトマキエイは平成20年11月1日の計測では、計測をおこなっていません。

1.【海遊館で展示中のジンベエザメについて】

「5代目海くん」

推定年齢8～9歳。性別はオス。平成19年6月11日、高知県室戸市室戸岬町高岡沖合の定置網にかかり、同年6月20日に以布利センターの大型水槽に搬入、平成19年9月11日に、陸・海路あわせて約420km、約22時間をかけて輸送し、海遊館の「太平洋」水槽に搬入しました。海遊館の「太平洋」水槽での飼育展示日数は、本日で782日目を迎えました。

「大くん」

推定年齢8～9歳。性別はオス。平成19年9月13日に高知県幡多郡大月町安満地沖の定置網に入網し、同月15日に以布利センターに搬入した後、平成20年6月15日に、海遊館の「太平洋」水槽に搬入しました。一般に愛称を募ったところ、合計2,322通もの応募をいただき、その中から呼びやすいか、響きがいいかななどを考慮し、「大阪にある水族館“海遊館”で、元気に大きく成長してほしい」という願いから、この愛称を採用しました。海遊館の「太平洋」水槽での飼育展示日数は、本日で504日目を迎えました。

2.【ジンベエザメ 英名 Whale shark 学名 *Rhincodon typus*】

ジンベエザメ科。温帯から熱帯の沿岸および外洋に生息する大型のサメで、全長18mに達する世界最大の魚類といわれています。ただし、18mという全長は測定に基づく正式な報告ではなく、その後、最大記録は全長13.7mとされてきました。ところが、この記録の真偽も不確かで、最近では最大10～12m、稀にさらに大きく成長する可能性もあると考えられています。日本近海では黒潮に乗って春から秋にかけて現れます。体は灰色で白色の斑点が散在し、小型甲殻類などのプランクトンを食べます。

3.【オニイトマキエイ 英名 Manta ray 学名 *Manta birostris*】

トビエイ科。世界最大のエイで、成長すると体盤幅は 6m を超えることもあります。頭部には左右一対の頭ビレがあり、普段は巻いた状態で前方に突き出して角のように見えます。体は菱形で背側は黒く、腹側は白地に黒い斑点模様があります。全世界の暖かい海域に生息しており、ダイバーの憧れの的としても有名です。ジンベエザメ同様、プランクトンを餌にしています。海遊館では平成 11 年 12 月 14 日に搬入したオスの個体を飼育中で、一日 2 回にわけて約 4.2kg の餌を与えています。

4.【イトマキエイ 英名 Spinetail mobula 学名 *Mobula japonica*】

トビエイ科。南日本から東シナ海、南シナ海、ハワイにかけて分布する大型のエイで、頭部の両端にある頭ビレが特徴です。「オニイトマキエイ」に似ていますが、「オニイトマキエイ」では口が頭部前縁に位置するのに対し、「イトマキエイ」では頭部腹面に位置すること、また背ビレの後ろにトゲがあることで見分けることができます。日本国内で見られることは稀で、成長すると体盤幅が 2m50cm 以上になります。「イトマキエイ」の餌付けと長期的な飼育には、世界中の水族館で海遊館が初めて成功し、昨年 6 月 1 日より「太平洋」水槽にてメス 1 尾を展示しています。



今回の計測の様子



今回の計測の様子